55

東京帝国大学医師スクリバの学外医療活動濃尾大地震における日本ドイツ協会の報告

高橋日出雄
医療法人社団成風会 高橋クリニック

外科のスクリバは内科のベルツとともに20年以上に渡り，西洋医学を明治政府お雇いドイツ人として，東京帝国大学医学部で教鞭をとった．スクリバは外科医として，日本外科学会名誉会員としてその功績は非常に絶大なものがある．また，学外でも幅広く活躍している．古今東西，災害がいつでも起こるが，明治24年（1891）の濃尾地方大震災の際，スクリバ一行も大学からの派遣で救援活動に速やかに現地に赴いているが，その詳細な報告を，本人が翌年，横浜において開催された在日ドイツ人協会で述べている約5ページの文書に残っていた記録を発見した．今回，我々はスクリバの学外活動のうち，濃尾地方に赴いた一行の救護医療活動の行程を，彼の報告に基づいて調査したので発表します．明治24年10月28日午前6時37分岐阜県本郡を中心とした直下型大地震が起こった．規模が大きく美濃，尾張地方を襲った大地震で，その記録を調査すると，後に岐阜新聞，岐阜放送出版の写真でみる濃尾震災や日本下水文化研究会設立5周年記念出版の三大地震と人々の暮らしの写真集などが出版されている．スクリバ自身が直接現地に赴き，自分の目で実体験として医療活動を遂行した具体的な報告として，翌年，在日ドイツ人の集会であるドイツ東洋文化研究会の横浜会議で述べた文書を入手できたので，経時的に地震の地域の被害状況や傷病の実際の医療活動について，詳細に報告している．当時の写真家やバルトン教授が撮った証拠写真を現代の地図を照らし合わせながら提示するつもりである．東京にあるOAG（オーアーゲー）ドイツ東洋文化研究会は非常に歴史ある古い在日ドイツ人の集会で，明治6年（1873年）創立されている．当時，横浜や東京に在日ドイツ人が日本を研究する集まりで，現在も続く親睦団体である．また，当時でもまた現在も災害が発生すると速やかに，ボランティア団体，慈善団体，日赤など各専門家が現地に集まり，医療救援隊や看護を伴った医療活動が開始される．明治24年10月28日早朝6時28分，濃尾地方にマグニチュード8,0クラスの大地震が発生し，東京には6時40分に震度を感じたという．スクリバの報告書を読むと，当日夕方，電報で大阪や横浜から緊密に連絡を取り，建築物の被害状況や障害模様と生存安否などを少しでも把握しようとしたとある．同月30日に大学から救援の命令が出て，スクリバの報告文によると，医学生14人，助手4人と大学職員3人の計21名の男性で救援隊を結成して，その日の夕方に新橋から夜行で，愛知県岡崎，知立，名古屋まで向かった．現地に到着して，スクリバが実際にその甚大な被害状況，道路，住居や寺院の崩壊した現状を直接目の当たりにして，その悲惨さを報告している．さらに名古屋市内，熱田，黒田，岐阜，大垣に出向いて，簡素な診療所を設けて医療活動した事を述べて，助手とともに震源地の岐阜県水鳥，根尾谷まで出掛けて視察したことも述べている．今回，我々は現在の都市地図と照らし合わせながら，当時の写真も交えてスクリバの報告書に沿って，供覧する予定である．